



向陵だより

相手意識をもち、自他を大切にする向陵っ子の育成
～ あなたも わたしも みんな たいせつ ～

～「安全・安心で元気な学校」づくりのために～

令和8年6月30日(火)

「あいさつ」のもつ力

校長 加藤 晴久

少し前のネットニュースで話題となっていました。飲食店を出るときの「ごちそうさま」はお金を払っているから不要だとか、会社などで親しい間柄でない人には「おはようございます」の挨拶をしない自由があるんじゃないか等「挨拶は必要か不要か」の論争がSNSで白熱しました。挨拶は必要であるとの意見が多かったようですが、中には挨拶そのものが不要というわけではないが、形式だけで何の気持ちもこもっていない挨拶や、朝からやたらと大声を強要される挨拶などは不要ではないかという意見もあったようです。みなさんは挨拶についてどのように考えていますか？



私は、毎朝、児童玄関前や校門の前に立って子どもたちの登校の様子を見ながら、「おはよう」「いってらっしゃい」の挨拶をしています。もちろん子どもによって、また、同じ子どもでも日によって挨拶の仕方は変わっています。先に笑顔で挨拶する子や元気な声で挨拶する子、小さな声で挨拶する子、会釈だけする子など。

挨拶はもちろん強制されるものではありませんが、人が社会の中で生活していくうえで大切なコミュニケーションツールの一つ、人と人の関係を滑らかにする潤滑油のようなものだと思います。「挨拶」という言葉の語源を調べると、もともとは仏教の禅宗で問答を交わして相手の悟りの深浅を試すことを「一挨一拶（いちあいいつさつ）」といい、その言葉に由来するそうです。「挨」には「たたく・押す」、そして「拶」には「近づく・開く」という意味があるそうです。つまり挨拶とは相手の心に働きかけながら自分の心を開き、相手の心に近付いていくということです。

SNS等でのやりとりでは相手の表情や声のトーンまで伝わらず、場合によっては意図しない形で伝わり相手に誤解を与えてしまう場合があります。

毎朝、子どもたちと直接顔を合かし、生の声で挨拶することによって、私自身が「今日も一日頑張ろう」とパワーをもらっています。子どもたちも朝、玄関や教室に入るときに、いろんな人と元気よく挨拶を交わすことができれば、きっとお互いにエネルギーをもらい、与え合い、少しほっこりした気持ちになっているのではないかと思います。

子どもたちが、「挨拶をすると、何だか心地いいな」と実感し、家族や地域の方々とも進んでさわやかに挨拶を交わし合える、そんな向陵っ子になれるように学校、家庭、地域で育てていきたいと考えています。

